

THE RACING PIGEON

11

2019 NOVEMBER

Vol. 728

レース鳩



令和元年度 協会タイトル特集 第四弾！

第7回ブロックチャンピオン賞受賞鳩舎紹介！

レース鳩帰還率賞全国ベストテン発表！

日本鳩レース協会作出鳩 誌上オークション 第1弾



19年度八郷国際委託鳩舎

国際チャンピオン88羽中当日唯一羽帰り優勝

(実距離 919.809K / 分速 1184.176m)

“パピオンCH号” 18XB00440 BC ♀ 小林保美鳩舎作・委託(兵庫県・神港連合会)

19年度オリエンタルカップ700K26位、国際親善鳩レース大会500K78位

*パピオン系源鳩 “パピオンフローラ号”、“アグネスパピオン号”、“パピオンR.CH号”、“R.CHジュニア号”の各重近親

北海道からのレースで全国をも制覇!

18年に桜花賞、19年に八郷国際鳩舎・

パピヨン系源鳩4羽

- ①“パピヨンフローラ号”
97WA06179 BC ♀ 小林保美鳩舎作翔
99年稚内1400K唯一羽帰りに総合優勝
全兄弟/②“アグネスパピヨン号”
- ②“アグネスパピヨン号”
99WA02485 B ♀ 小林保美鳩舎作翔
01年沼田桜花賞1220K総合2位
全兄弟/①“パピヨンフローラ号”
→96BB01333 B 福田 守作
“ブルドックオベル”の近親
→93ZA60233 BC 桜井忠義作
“瀬戸内稚内号”(稚内1400K総合3位)×
“ファーストレディ号”(稚内1400K総合優勝)
- ③“パピヨンR.CH号”
94WA00614 BC ♂ 小林保美鳩舎使翔
98年長万部GN総合10位・連盟2位
97年長万部GN総合34位・連盟4位
直仔/④“R.CHジュニア号”
→88-109582 B 三野善弘作 “モンティキング”の孫
→93WA02837 BC 上田作翔 300K優勝
ファブリー系×ファンデウエーゲン系
- ④“R.CHジュニア号”
99WA02421 BC ♂ 小林保美鳩舎作翔
01年沼田桜花賞1220K総合4位
→③“パピヨンR.CH号”
→“パピヨン854号” 94WA00854 小林作翔
桜花賞総合46位、70位

19年度八郷国際委託鳩舎・ 国際CHレース900K88羽中優勝

表紙
の
鳩

“パピヨンCH号”

18XB00440 BC ♀ 小林保美鳩舎作

*翔歴は表紙参照

- “パピヨン538号” 12DA08538 B 小林保美作
→“ビッグパピヨン号” B 小林作翔
06年東四国連盟地区N600K総合優勝
“レインボーパピヨン号”
(04年東四国連盟地区N600K総合優勝)の直仔
→“ファイブパピヨン号” BC 小林作翔
11年兵庫東連盟ファイブアベレージ賞1位
→07WE02885 BC 小林作 ①“パピヨンフローラ号”の直仔
→08WE02865 B 小林作
全兄弟の直仔/レイ・パピヨン号(16年兵庫東連盟Rg総合優勝)
全兄弟の孫/19年関東三ブロック連盟GP最高分速
→“ブランドパピヨン号” BC 小林作翔
06年東四国連盟桜花賞900K当日総合優勝
→“アグネスパピヨン号”の直仔×
(④“R.CHジュニア号”×①“パピヨンフローラ号”)
→②“アグネスパピヨン号”
→“パピヨン170号” 14DA12170 BC 小林保美作
→④“R.CHジュニア号”
→“パピヨン118号” 05WE00118 BC 小林作翔
06年東四国連盟桜花賞900K当日総合6位
→“パピヨン334号” BC 小林作
→④“R.CHジュニア号”×①“パピヨンフローラ号”
全兄弟の直仔/“花香・パピヨン号”(右掲)、“レイ・パピヨン号”
全兄弟の孫/19年関東三ブロック連盟GP最高分速
→“パピヨン961号” BC 小林作
→③“パピヨンR.CH号”×②“アグネスパピヨン号”
全兄弟の娘/“花香・パピヨン号”(右掲)

形成者の熱意により

熟成度極まる!

淡路島に鳩舎を構える小林保美さん(神港)は、稚内あるいは沼田からのレースで成果を残したマラトンチャンピオン4羽——“パピヨンフローラ号”と全妹“アグネスパピヨン号”、“パピヨンR.CH号”と直仔“R.CHジュニア号”を源鳩としたオリジナルラインを持つ。“パピヨン系”と言われるそれは、06年に地区N、そして当時所属した連盟で初となる当日帰りで桜花賞を制したことを皮切りに完全覚醒。以来、距離を問わずに毎年総合優勝鳩を生み出し、大ブレイクしたことは有名な話だ。

ところが11年、兵庫東連盟に移籍したことから、小林さんは大きな地理的ハンデを負う。最遠距離になつた上、淡路島にはレースマンが限りなく0に近く、本州を抜ければ単独飛行という状況だ。総合優勝など夢のまた夢であることはいわずもがな。しかしこの逆境が小林さんの競翔家魂に火をつけた。これまでは鳩、つまり血統だけで勝負してきたが、「帰巢性」を高めるために訓練を積極的に行うなど調教面に力を入れる。

すると移籍1年目にして200Kと300Kで連続勝利を収めて周囲の度肝を抜くと、13年にはメインのR8を制覇。16年にも同レースで総合優勝を果たし、なおかつベスト8独占の完勝劇までも演出した。そして昨年GPで総合優勝を飾り、ま

た北海道からの桜花賞で唯一羽帰りの完全総合優勝を実現。地理的ハンデを乗り越え、連盟2勝を果たす。なお源鳩4羽の孫鳩になる後者(*桜花賞総合優勝)は、ベルギー王立愛鳩家協会会長賞連盟1位との二冠だ。血統と成績から“パピヨン系”の集大成にして最高チャンピオンだと小林さんは評価。ゆえにこの最高傑作の名には、愛孫の名前“花香”が引用されている。

これらの実績からも管理面を強化したことから“パピヨン系”の反応が高まった——つまり進化したといつて過言ではない。しかもそれは、地理的ハンデなど微塵も感じさせないどころか“独自のコースを開拓した”と周囲から言わしめるほどに熟成されている。

そして今春、“パピヨン系”は国内最高峰のワンロフトレース「八郷国際鳩舎」にて、その実力を誇示した。源鳩4羽の血を絡ませ、なおかつ鳩質重視で選ばれたという期待の精鋭が、なんと最終レースの国際CHで“当日唯一羽帰りの完全優勝を果たしたのである。その一方で同じく源鳩4羽の近親鳩の直仔が、関東三ブロック連盟GPを制覇! 史上初となる神奈川鳩界からの勝者——ヒストリーメーカーを誕生させたことも追記しておく。

北海道からのレースで地元鳩界のみならず、関東、そして全国にその実力を示した。「パピヨン系」、ここに極まる!